

いまベトナムが熱い



丸山 隆彦記者

中国からアジア新興国に生産拠点を移すチャイナ・プラス・ワンがいわてて久しいが、アセアン中心国のタイでも人件費が上昇。安価な労働力が確保でき、現地の旺盛な消費市場も取り込める進出先として、ベトナムが脚光を浴びている。首都ハノイに駐在する物流企業担当者は「これまでと違い国内の生産拠点の整備が進んでいる。物流需要は急速に高まっている」と話す。

働き者の女性 が経済を支え

先日、ベトナムの首都ハノイに駐在する日系物流企業の現地責任者に取材する機会を得た。90kgの移動が車で4時間もかかり、男性はプライド

の塊、働き者の女性が経済を支えていて、昼食に出す弁当の内容が従業員の定着率を左右するといつた生々しいエピソードを聞くことができた。

ただ一番印象に残ったのは「陸のアセアンで最も人口が多いベトナムの潜在需要を取り込んでいかたい」という言葉。ベトナムへの進出アームは1990年代から3回あつたといわれる。近年進出した企業は後発組に入るが、この現地責任者は、国内の生産拠点の整備状況がこれまでとの相違点たとし「旺盛な国民の購買意欲にタイミング良く商品を供給できる体制が整つある。物流需要が急速に高まっている」と強調。

ベトナムは家電など耐久消費財の多くの輸入をタイからの輸入に頼るが、国内の生産大幅上昇となっている。

物流需要は高まる一方

弱点の生産インフラ充実へ

の先行投資は



件数は774件(同20.8%増)と過去最多だつて。日本貿易振興機構の調査では、昨年の材料・部品の現地調達率は34.2%。過去6年間で12倍の数字だ。

ミャンマーへ

円)。同国最大の商業都市ホーチミンの一般工賃は8%増)と過去最多だつて。日本貿易振興機構の調査では、昨年の材料・部品の現地調達率は34.2%。過去6年間で12倍の数字だ。

大型倉庫建設に着手し



ワーク・ライフバランス
浜田 紗織
コンサルタント

新国立競技場の建設工事を行っていた23歳の新卒男性が、今年3月に失踪し長野県で遺体で発見された。失踪前1ヶ月間は211時間56分の残業が確認され、両親は労働基準監督署に労災認定を申請した。デザイン案確定が遅れ、工期が圧縮。重機もそろわざ厳しい環境に置かれたといわれている。

過労死問題の第一人者、川人博弁護士は使用業者、元請け、発注者、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会、東京都、政府関係機関などに深刻な実態を直視すべきと、業界の構造的問題と手をこまねいていれば、人手不足に拍車を掛けることになる。そこで、自社の改革だけでなく業界の問題も改善させた物流企業の事例を紹介する。

大塚倉庫は平成27年から

相互改革が重要に

**社長の疑問が
手待ち改善に**

改革のきっかけは「朝9時から一番に荷降ろしするため、トラックはいつから止まり順番待ちしているのか」という同社の倉庫に並ぶドライバーに対する社長の疑問だった。駐車場で前かがみ常習となつており、夜の報酬は支払われていな

たためスマートフォン(高機能携帯電話)向けアプリを開発した。

さらにe-伝票という仕組みを構築し、入庫時の検品をなくした。スマホで納品伝票と受領印を電子化。

これまでの順番待機の問題が解消され、商品の過不足などを確認できるようにした。現場では予約に慣れ始め、伝票処理の手間から解放されたと

ドライバーの生活も豊かに

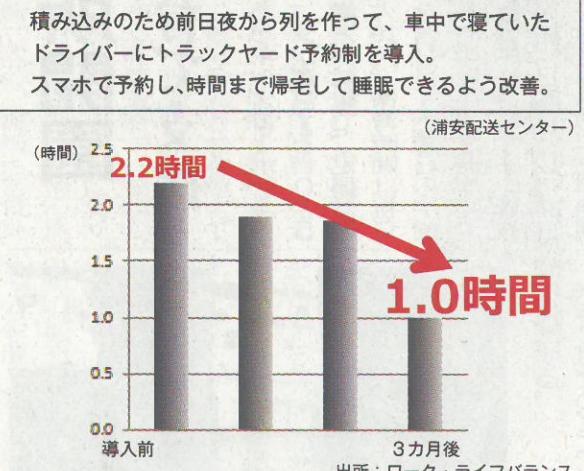
これまでの順番待機の問題が解消され、商品の過不足などを確認できるようにした。現場では予約に慣れ始め、伝票処理の手間から解放されたと

ドライバーの生活も豊かに

これまでの順番待機の問題が解消され、商品の過不足などを確認できるようにした。現場では予約に慣れ始め、伝票処理の手間から解放されたと

ドライバーの生活も豊かに

物流センターでの平均滞留時間の推移



F 働き方改革への鍵

さまざまな改革を行ってきました。事務所各戸口の最終退出者をチークでネットに書かせ、集計結果を周知。社員の生産性への意識を高め残業を削減したり、業務を行なうことで、所間での交流を活性化させりしている。

だが、同社の課題の根本は「運送会社の入庫、倉庫での保管、運送会社の出庫」という外部企業とのリレーで業務を行うことになり、自社の改善だけでは限界がある。また、配達を担うパートナー企業のドライバー不足は安定供給を脅かす。

この改善だけでは限界がある。またドライバーも家族との時間が増えた喜んでいる。

この改善だけでは限界がある。またドライバーも家族との時間が増えて喜んでいる。

この改善だけでは限界がある。またドライバーも家族との時間が増えて喜んでいる。

この改善だけでは限界がある。またドライバーも家族との時間が増えて喜んでいる。

この改善だけでは限界がある。またドライバーも家族との時間が増えて喜んでいる。